ホームページ公開

事務局報告にかかる議事概要

１　事務局報告の概要

（１）第２次岐阜県教育ビジョンについて（３）

第２次教育ビジョンについて、委員による意見交換を行った。

（委員からの主な意見等）

・現行ビジョンの基本理念を継承することは賛成だが、基本理念に続く施策の部分において、他県にはない岐阜県の特色を出していく必要があると思う。岐阜県は、山の国であり川の国でもある。豊かな森林や清流などにちなんだ取組が必要だと思う。
・目指す人間像について、誰に向かって、誰が伝えようとしているのかをはっきりさせた方がよい。
・清流スピリットを浸透させるアイデアがほしい。
・「清流スピリット」について、その言葉を聞けばみんなが想像できるようなイメージを作ることが必要ではないか。清流スピリットとは何か、具体的にイメージが出来ず、曖昧になってしまっている。「地域社会人」に関しても、具体的なイメージ図があると良い。
・被災地の宮城県東松島市で行われている「森の学校プロジェクト」では、復興に向けて、森の中に学校を建設し、文字通り「森の学校」のモデルを建てようとしている。岐阜県教育ビジョンにおいても、その理念に沿ったモデル校を１校でも作ることが必要ではないか。
・へき地などの小規模校においても、質の高い教育を提供するための取組や、スポーツ・学力等に特徴づけた全寮制の学校を作るなど、個人を強く育てていく仕組みを考えてはどうか。
・静岡では、観光と産業に力を入れており、子どもたちは地元の企業に入りたいと思い、がんばる状況がある。岐阜県においては、個々においては世界的な企業もあるが、岐阜の子どもたちにとっては、あまり魅力的な企業がないことも事実である。
・大人が自信を持って「岐阜の良さ」を子どもたちに示すことが出来るようにすることが大切である。
・海外では、高校に入学した後、将来何になりたいかを子どもたちに問い続け、その結果を受け将来の進路を提示する。しかし、日本ではどの大学に入りたいかだけの進路指導になっている。
・元来、日本の教育は、集団教育に重点を置いてきたが、現在は個性を伸ばす教育との狭間で中途半端な状態になってしまっている。集団教育と個性重視の教育がうまくバランスが保たれていない。
・少子化などにより、自分の子どもしか見ていない親が多くなった。子どもの数が減っている状況で、親自身にも余裕がなくなっているため、周囲と連携して子どもたちのコミュニケーション能力を高めていく施策が必要ではないか。
・大人の都合と親の都合で世の中が成り立っており、子どもたちに視点をおいた取組が必要である。また、親たちは学校に不信感を持っている場合も多く、学校と親の信頼関係を築いていく必要がある。
・日本人の価値観の変化が、教育を変えてきた。何か新しいことに取り組まなければ、現状は変わらないのではないか。

（２）平成２４年度における県教育行政への県民意見の反映状況（概要）

教育総務課長が、教育モニターから寄せられた意見とその対応状況を報告した。

（委員からの主な意見）

・教育モニターを増やした理由は。
（教育総務課長から補足説明）
〔　各市町村から１名を選ぶこととした。　〕

ホームページ公開

（３）平成２４年度岐阜県における全国レベルの表彰（文化部門）について

教育総務課長が、昨年度岐阜県内の児童生徒等が受けた全国レベルの表彰について報告した。

（特に意見なし）

（４）岐阜県現代陶芸美術館協議会委員の候補者名簿について（非公開案件）

次回教育委員会会議に議案として提出予定の、岐阜県現代陶芸美術館協議会委員の任命に係る候補者について、社会教育文化課長が説明した。

（特に意見なし）

（５）岐阜県銃砲刀剣類登録審査委員の任命について（非公開案件）

社会教育文化課長が、岐阜県銃砲刀剣類登録審査委員の任命について報告した。

（委員からの主な意見）
・審査は、一人の委員が良いと言えば良いのか。

（社会教育文化課長から補足説明）
〔　合議制ではなく、１人で審査を行う。〕

（６）平成２５年度教育委員行事予定について

教育総務課長が、平成２５年度の教育委員行事予定について報告した。

（特に意見なし）

（７）その他
・教育総務課長が、政府の教育再生実行会議の提言について報告した。

以上